

## 霧囲気と植生重視の地下支柱方式の移植（新技術工法）

熊倉興和

ゴルフ場や公園、建物外構、街路樹の景観に樹木は欠かせない。

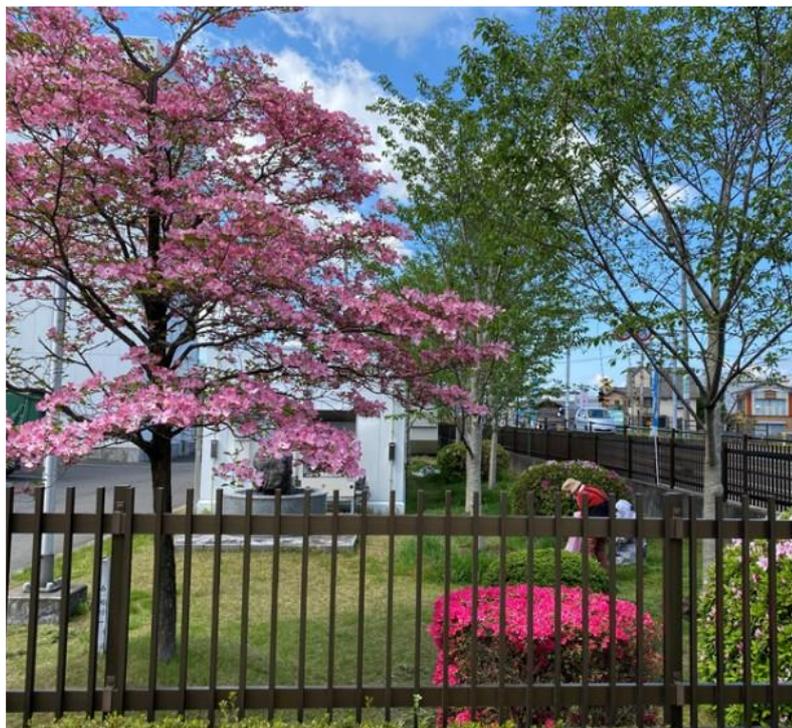
例えば、クラブハウスへの進入路ではプレーヤーの非日常への期待を高めてくれるし、コース内の樹木はプレーの難易度を左右する。だが、それら木々に支柱が施されていると、せっかくの霧囲気も台無しになりかねない。そこで、新技術として考案したのが、『地下支柱方式』での移植である。

植孔にパイプを組込みカンザシ基礎を入れる、根巻きした樹木を結束し、木の自重と土圧で支持力を高める構造である。地下部で固定しているため、地上部の見た目はスッキリ、植樹した木は、あたかも昔からそこにあるかのように活着していく。

この方法で昨年までに数百本の移植しているが、台風19号等の被害も一切受けていない。

また、角部に補強材として、2軸のセンサーや腐食しにくい布等を挟むことで強度を増す。根巻きする資材（縄・コモ）は腐食するので、地上部の成長と共に根も自由に伸長し、より支持力が高くなる。

近年はマツ材線虫病やサクラの老木枯れ、倒木等で、移植を余儀なくされるケースが多く。この地下支柱方式は、安価で実用的であるため、新技術工法として造園工事に採用されている。



【施工例】

根際の芝地も含めて、移植された木とは思えない風情を保っている。



左：樹高 15m



右：樹高 5～7m



ラクウショウを根巻き



購入木



クレーンにて立て込み



地下支柱

【施工例】

中高木の地下支柱

サクラ老木伐採伐根（着手前）



サクラ植替え（完了）



地下支柱施工状況



地下支柱施工状況



サクラ開花時の景観（2020,4）



サクラ開花後の景観（2020,5）

